田中康夫の新ニッポン論 83

炙り出し

1ヶ月半前の4月14日、国際通貨基金＝IMFは2020年の世界経済成長率予測をマイナス3・0%に引き下げました。日本にも言及。数値はマイナス5・2%。

翌日開催の経済財政諮問会議。「令和のルイ14世改め16世」は大言壮語します。「今回の緊急経済対策108兆円で、国内総生産GDPを3・8%押し上げる」。

★次号7月号の発行日は6月26日です。

が、君子豹変。1~3月期速報値に基づき年率換算マイナス3・4%を〝しれっと〟5月18日に発表。それとて超~甘々。にも拘らず内閣記者会は同日の官房長官会見で、「認識と今後の対応方針をお聞かせ下さい」。怖ず怖ずと敬語で尋ねるヘタレ振り。

「大本営発表を垂れ流した私等もアホやったけど、ウソついてた貴方等も謝らんとあかんちゃう?」。

〝一宿一飯の恩義を仇で返す〟半端者であってこそ一端のブン屋稼業。その公理を忘れて久しい極東の島国の「呆道塵」です。

〝経世済民の愛民心〟に溢れる書き手も居ない訳ではありません。4月28日付『日刊スポーツ』は第1面全12段ぶち抜きで森喜朗　東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会＝TOCG会長の独占インタヴューを掲載。

パンデミックの終息が見込めぬ場合は再延期も有り得るか?「ない。その時は中止。過去にも戦争など、そういう問題が起きたら普通は中止になる」。直截な質問に真摯な返答。なのに驚く勿れ全ての翌日の一般紙・スポーツ紙は、国家権力の最高位を極めた人物の発言を黙殺しました。

「最短でもワクチン開発から供給に18ヶ月は要する」とのアンソニー・ファウチ米国立アレルギー・感染症研究所＝NIAID所長の見解に全面同意する本庶佑・山中伸弥「日本の泰斗」コンビ。

〝裸の王様〟を演じ続けるのは蜻蛉洲の宰相、帝都の首長、珍・三密基準「パチンコは駄目だがカジノはOK」を高言のナニワ首長コンビ&後見人・平熱パニックおじさん、洞察力なき誤送船団・記者クラブの面々のみ。

2年前に国土交通審議官から転じた田端浩観光庁長官は5月20日、「非日本国籍」来日客の旅費半額補助キャンペーンを7月にも開始と宣言。予算総額1兆3500億円。「日本の人民日報」読売・産経、「日本の朝鮮中央放送」NHKに留まらず邦文メディアが一向に報ぜぬ一方、海外媒体では物笑いの種と化しています。

何故って、111ヶ国・地域から日本への入国を原則拒否と国家安全保障会議NSCが胸を張る一方、183ヶ国・地域が日本からの入国を原則拒否、と外務省HPは記しています。因みに国際連合加盟国は193ヶ国。

その外務省国際情報局分析第一課に奉職していた佐藤優「知の巨人」。猫好きの彼は、花田紀凱責任編集と表紙に大書きされた「月刊Hanada」で『我輩は猫である』へのオマージュ「猫はなんでも知っている」を長期連載中。ショウなる猫は語ります。

「いまは非常時だ。新型コロナウイルスの嵐が去るまでは、民主的手続きによって選ばれた最高指導者である安倍晋三首相を断固支持すべきだ。客観的に見て、安倍政権の危機対応は合格点だ」

「安倍首相の指導で、首相官邸は外交にもきめ細かい目配りをしている。ただ、その実態をマスメディアが報じていないだけだ」。「安倍晋三首相の下で団結しよう」。

安倍応援団機関誌だった筈の「月刊Hanada」。豈図らんや最新号の表紙にも目次にも安倍の「あ」の字も見当たりません!「一宿一飯の恩義を仇で返す」花田翁の見上げた編集者魂。逃げ足速き媒体で独り気を吐く佐藤氏。これぞ「一宿一飯の恩義」を忘れぬ「ほんまもんの『保守』」。舌を巻きました。